

2019春闘勝利!

要求獲得に向け総決起しよう!



中央交渉を押し上げる! 「国労東北」 要求獲得を意思統一

3月8日、仙台市内において国労東北総決起集会が開催され366人の国労東北の仲間が集まりました。仙台市・ホテル法華クラブでの集会は二部構成で行われ、第一部として、国鉄労働会館主催の東北労働講座が行われました。

第二部は、国労東北総決起集会が行われ、主催者を代表し、東日本本部・大沼委員長と東北協議会・佐藤浩一議長がそれぞれ挨拶を

3/8国労東北 総決起集会

行い「春闘情勢とJR会社の動向、国労の取り組み、19春闘勝利と諸課題の前進を図る取り組みを通じて、未組織労働者をはじめとした仲間を国労に迎え入れる決意を固め合おう」と訴えました。

来賓の政党や友誼団体から挨拶を受け、東北三地本の各代表と東北貨物協議会議長からは「春闘の闘いを通じて組織拡大を」「ストライキで要求を勝ち取ろう」など力強い決意表明を受けました。

集会後に参加者は4隊列で仙台市内をデモ行進。賃上げを始めとした労働条件の改善や安全問題等の国労要求をシュプレヒコールで市民にアピールし、氣勢を上げました。(仙台地本発)

19春闘は、2月12日の一斉申入れ以降JR各社との交渉が開始され、3月15日にはJR東日本・貨物会社で回答が示されました。

JR東日本は「所定昇給額の6分の1」「エルダー・グリーンスタッフ社員、500円増」「初任給、係職1号700円増・係職2号800円増」、JR貨物は、「200円増」と低額回答でした。各グループ会社は、これから回答が示されます。

引き続き、要求獲得に向けた取り組みを強化します。

今号は、各地方での春闘勝利に向けた取り組み、「2019原発のない福島を!」県民大集会、東日本本部自動車協議会第31回定期委員会、乗務員勤務プロジェクトについて報告します。



(組合員の購読料は) (組合費に含まれます)

港区新橋5-15-5 交通ビル
国労東日本本部
発行責任者 大沼 元
編集責任者 樋口孝重

No. 817 定価 20円
2019年 3月29日

職場の矛盾 仕事の不満 国労に結集し みんなで相談解決へ

QRコードからでも閲覧できます
<http://www.e-nru.com/>

上野支部 春闘総決起集会

上野支部は2月13日、東田端ふれあい館において、春闘総決起集会を開催し、40名を超える組合員参加のもと、19春闘勝利に向け、意思統一を図ってきました。

野佐根委員長が、①職場代表者確立に向けた取り組み、②平和と民主主義を守る闘い、③春闘の取り組み、④JRの状況について報告し、「国労運動を職場で力強く示し、組織の強化拡大とJRで働くすべての仲間の労働条件改善に向け全力を挙げよう!」と力強く挨拶をしました。

3/10 大井工場支部が春闘宣伝行動 大幅賃上げ目指し、宣伝行動を行う!



東日本本部・本間執行委員からは「情勢とJR東日本変革2027」を中心に、①2019春闘について、②会社の動きと他労組の動向について、③組織強化・拡大について報告を受け、東日本本部・榎戸特別執行委員からは「貨物会社における新しい人事制度の狙いと問題点」について、①「新人事制度」の特徴、②国労の基本的な要求、③新人事制度の狙いと問題点、④今後の課題について報告を受けました。

3月10日、JR新宿駅南口において、東京地本・大井工場支部の呼びかけによる中央本部作成の春闘チラシ配布行動を行いました。

当日は当該支部以外からも、中央支部をはじめとした組合員の参加があり、天候にも恵まれ、春本番を思わせる陽気の中、ゼッケンを着用し、駅の利用者や通行する方へ元氣よくチラシを配布しました。

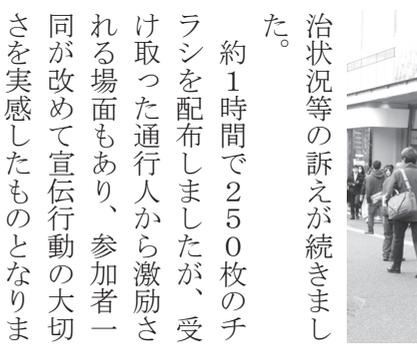
木村支部委員長を中心に参加者より街頭演説も行われ、2019年春闘における国労の取り組みやJRの安全問題、原発や今日の政

約1時間で250枚のチラシを配布しましたが、受け取った通勤人から激励される場面もあり、参加者一同が改めて宣伝行動の大切さを実感したものととなりました。(大井工場支部発)

最後に、野佐根委員長の団結ガンバローで19春闘に向けた意思統一を図りました。

我孫子金町保線技術センター分会・打越分会長、隅田川機関区分会・高橋分会長と保泉副分会長、昨年12月に加入をした鶴間武さんからはそれぞれ力強い決意表明がありました。

治状況等の訴えが続きました。



**「2019
原発のない
福島を！」
県民大集会！**

**全基廃炉を
求めるアピールを
採択！**



3月16日、「2019 原発のない福島を！県民大集会」が福島県教育会館で開催され、県内外より約1,700名が結集し、会場を埋め尽くしました。2011年3月11日に

発生した東日本大震災・東京電力福島第一原発事故から8年が経過しました。東京電力は昨年6月、事故を逃れた福島第二原発の廃炉検討を発表しました。福島ではいまだに4万人以上の県民の方が不自由な避難生活を強いられ、住民の帰還の問題、生活の再建や復興、風評被害、子どもを中心とする健康被害、除染廃棄物の処理問題など課題が山積んでいます。

被災者や県民からの報告では「被災地の学校の休校や閉校を一気に早めた原発事故だ。6,397人いた双葉郡内の小学生が、今年度スタート時点では531人。子供たちの数が増えず、落ち着いた学習教育環境も確保しにくい」「除染もままならず、田んぼに今も黒い袋が残っている。原発事故は恐ろしい」と訴えました。

集会の最後には、東京電力福島第二原発の全基廃炉を求めるアピールを採択しました。国労からも、仙台・水戸地本を中心に多くの組合員が参加し、改めて原発事故について記憶と意識の風化をさせない取り組みに全力を上げることを確認してきました。

**2/13~14
東日本自動車協議会
第31回
定期委員会を開催**



国労東日本本部自動車協議会は、2月13~14日、宮城県松島において第31回定期委員会を開催しました。

岩崎副議長長の司会、渡副議長長の議長で進められ、東日本自動車協議会・丸山議長から「組織強化・拡大を最大目標とし、この1年間運動を行ってきた。その結果、関東・東京支店で昨年3月に岡田さん、6月には車両係の

松原さんが相次いで国労復帰加入した。現在、国鉄世

代の第2大量退職期を迎えており、近い将来現職とエルダー社員の比率が逆転してしまいう日が来る。国労運動の継承・発展に向けて奮闘してきたが、さらなる組合員の頑張りが必要とされている。また、昨年2月以降の多数組合・東労組の瓦解により、労務政策は大きな転換点を迎えている。東日本管内で組合未加入者が3万6千人・社友会加入者が2万人いる状況の中、自動車職場においても、東労組の脱退が相次いでいる。社員代表選挙でも適正な選挙が行われていない職場もあり、一部に社友会を通じた動きが強まる事も想定されるので注視していかねばならない。仲間を依拠して考え忌憚のない意見を」と提起しました。

東日本本部・大沼委員長からは「19春闘については、拡大大中央委員会・東日本拡大大委員会の方針を確立してきた。昨年の東労組の瓦解により労使関係がガラッと変わった。原点に立ち返り仲間作りを取り組んでいく。また、『変革2027』の提案はグループ会社全部に影響する。組合未加入者へも強く訴えていく」と述べ、安全・安定輸送や政治の課題についても報告されました。

各委員からは「職場での慢性的な要員不足で月3~4日の休日出勤が当たり前になっている」「エルダー制度が昨年4月改善されたが、基本給・諸手当を含めた更なる改善を求める」「バス社員の55才以上の基本給の減額問題に取り組んで欲しい」等の報告や質問が多く出されました。

労働講座では、国労西日本自動車協議会・岩山淳事務長より「西日本豪雨災害の現状」について講演をいただきました。「中国地方の鉄道の復旧は進んでいないが、未だに仮設住宅で生活している方々もいる。国に早急な対策を求める。またJRバスも代行輸送で大変だった。関東の皆さんにも協力いただけて大変助かった」と報告されました。

一日目終了後の交流会では、日頃の鬱憤ばらしで大いに花が咲きました。二日目は各委員・分会代表者から現状や課題についての報告を受けて、最後に兜森事務長より「今年度は国労にとっての正念場の年となる。組合員一人ひとりが自覚と自信を持って組織強化・拡大に奮闘していきましょう」と集約がされ、丸山議長長の団結ガンバローで閉会しました。

（自動車協議会発）

**乗務員勤務
プロジェクト**

**「乗務員勤務制度の見直し」を受けて
改めて乗務員勤務を
検証しよう**

3月18日、国労東日本本部乗務員勤務プロジェクトを開催しました。

昨年「乗務員勤務制度の見直し」と「賃金制度の見直し」を受けて、3月16日のダイ改後の乗務員勤務の検証を行いました。今回の大きな改正点は、①育児・介護の短時間行路の設定、②行先地手当の廃止、③深夜早朝手当の見直し、④当

とりわけ育児・介護の短時間行路の設定では、乗務員からは「保育園が開いていなくて子供を預けられない」との声も出され、行路設定時刻など問題があることが明らかになっていきました。さらに行先地手当の廃止や深夜早朝手当の見直しで乗務員手当がどうなるか

が課題となっています。乗務員勤務プロジェクトでは、当面「育児・介護の短時間行路」での実態調査と稠密・一般線区乗務員手当の現改比較の調査を取り組むことになりました。

今後は、勤プロ作成要求宣伝ビラ（HPに掲示）を活用した対話運動の展開、『変革2027』における「ドライバレス運転」や「乗務員基地の再編」の検討、申1号「乗務員勤務制度」要求の実現に向けた取り組みを行っていきます。課題は山積していますが、JR東日本で働く約1万1000名の乗務員の皆さんの労働条件改善をめざして、引き続き取り組みを強化していきます。

これからの医療の進歩を見据え、「生きるためのがん保険」を新しくします。

NEW/ 生きるためのがん保険 Days1

アフラックはがん保険契約件数 **No.1**

NEW/ 女性特約のがんにも手厚い **生きるためのがん保険 Days1**

NEW/ あなたの保障を最新化 **生きるためのがん保険 Days1 プラス**

すでにアフラックのがん保険に契約の資格に

アフラック (引受保険会社) 「生きる」を創る。 **Aflac** アフラック 東京第二法人営業部 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル19F TEL.03-3344-1429 FAX.03-3344-2658

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております) **アベニール株式会社** 〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階 TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822